

建設地	： 埼玉県川越市	竣工	： 令和元年 11 月	敷地面積	： 192.65 ㎡
地域区分	： 5 地域	用途	： 専用住宅	延床面積	： 89.79 ㎡
設計者	： (株) シティ環境建築設計	構造・階数	： 木造軸組・地上 2 階	建築面積	： 50.62 ㎡

■提案の概要

○埼玉県川越市内に建てる住宅に相応しい、歴史的な景観要素や周辺の緑の連担を考慮した都市型住宅。

長寿命の家づくりを担保するため、維持管理を支える職人衆の技能の継承を図るために、手刻みと組立。和瓦葺き・土塗壁・板金等の手仕事の場とした。

身の回りの素材でつくることを原則とし、天然乾燥の国産材・藁床いぐさ畳表・国産植物系断熱材を使用。

○周辺家屋が、腕木門、門被りの松・生垣等を残していることから、道路際に生垣を設置し、コナラ等の潜在植生木、家庭菜園により、敷地内をできるだけ緑化している。

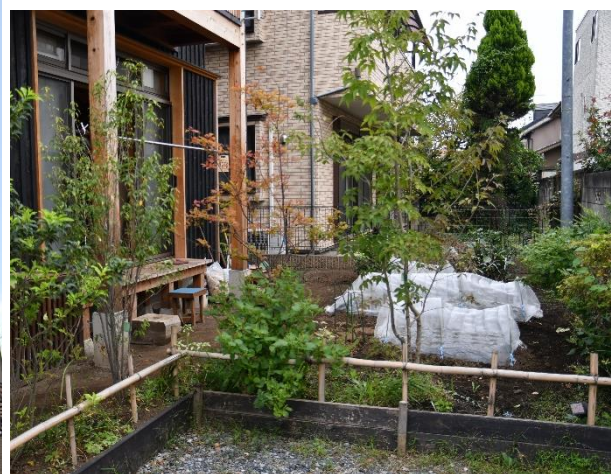
また、川越の歴史的なまちなみ景観へ配慮し、土佐漆喰と焼杉羽目板張りの外壁としている。

○建設地近くの地域材である西川材を主材として使用。他には、福島県産の赤松材等も使用している。

地域で活躍している大工・鳶・左官・瓦・板金・建具・畳・経師等の職方で建設チームを構成し、建て主と職方それぞれとの直接契約方式を採用し、維持管理の円滑化を図っている。



川越の歴史的景観に配慮した漆喰（白）と焼杉（黒）の構成による外観





家庭菜園のある四季を感じる庭




力強い構造体が現しになった内部空間

■地域の気候風土への適応・環境負荷低減対策

凡例：気候風土への適応 



環境負荷低減対策 

□続き間 

1階の居間食堂と和室を続き間とすることで空間の可変性をもたせている。





続き間

□深い軒・庇  

○軒の出：940～1,570mm



深い軒・庇

□多層構成の建具  



障子+アルミサッシ+アルミ製網戸+アルミ製雨戸の多層構成としている。
南面の開口部の幅は2,727mmの大開口としている。



多層構成の建具



板張り外壁

□板張り外壁  



焼杉の羽目板張りの古色塗り仕上として、歴史的景観に配慮している。





土塗壁



木製建具

□土塗壁  

厚さ75mm。
国産植物系断熱材（40mm）を入れている。

□木製建具  

玄関を地場で製作した木製の引き違い戸とし、歴史的景観に馴染むよう配慮している。
ガラスは複層ガラスとし断熱性に配慮している。

□地窓  



地窓を設け、南側の掃き出し窓等、開口部の位置や大きさを考慮し、通風を図っている。



地窓



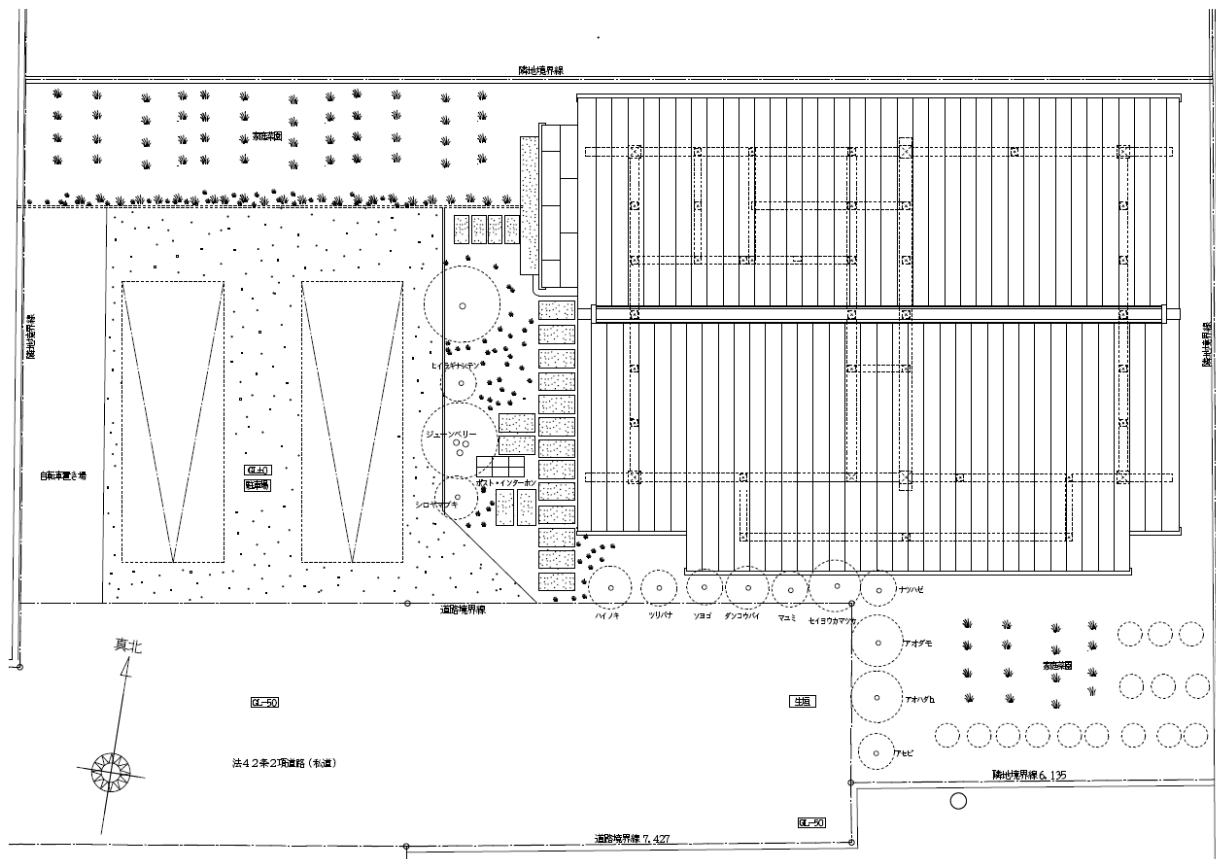
外構・緑化

□外構・緑化  

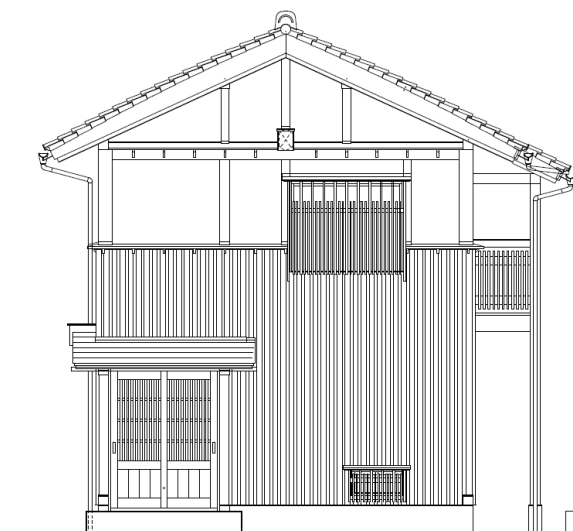
建物南側は家庭菜園の場として活用し、道路側は生垣とするなど、敷地の環境向上と周辺地域との連担に配慮している。

■エネルギー性能（採択時）

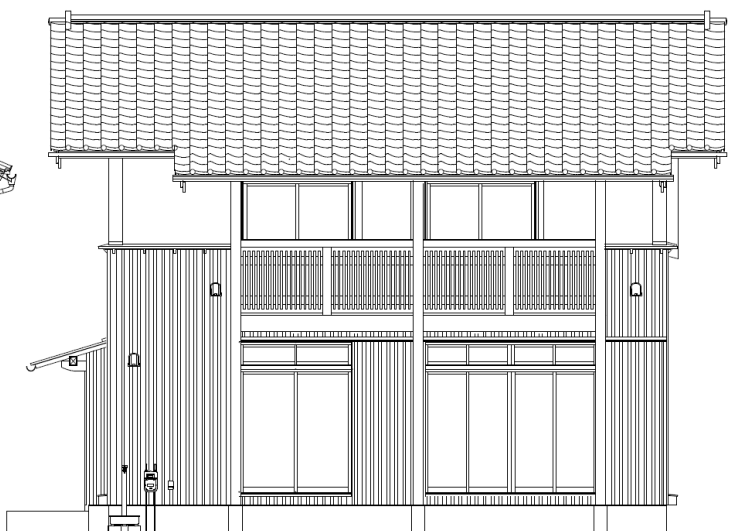
項目	基準値	設計値
評価方法	Webプログラム 気候風土適応住宅版による評価	
地域区分	5地域（埼玉県川越市）	
外皮平均熱貫流率（ U_A 値）	0.87以下	1.21 W/($m^2 \cdot K$)
一次エネルギー消費量	87.1以下	64.6 GJ/(戸・年)
一次エネルギー消費性能（BEI）	1.0以下	0.81



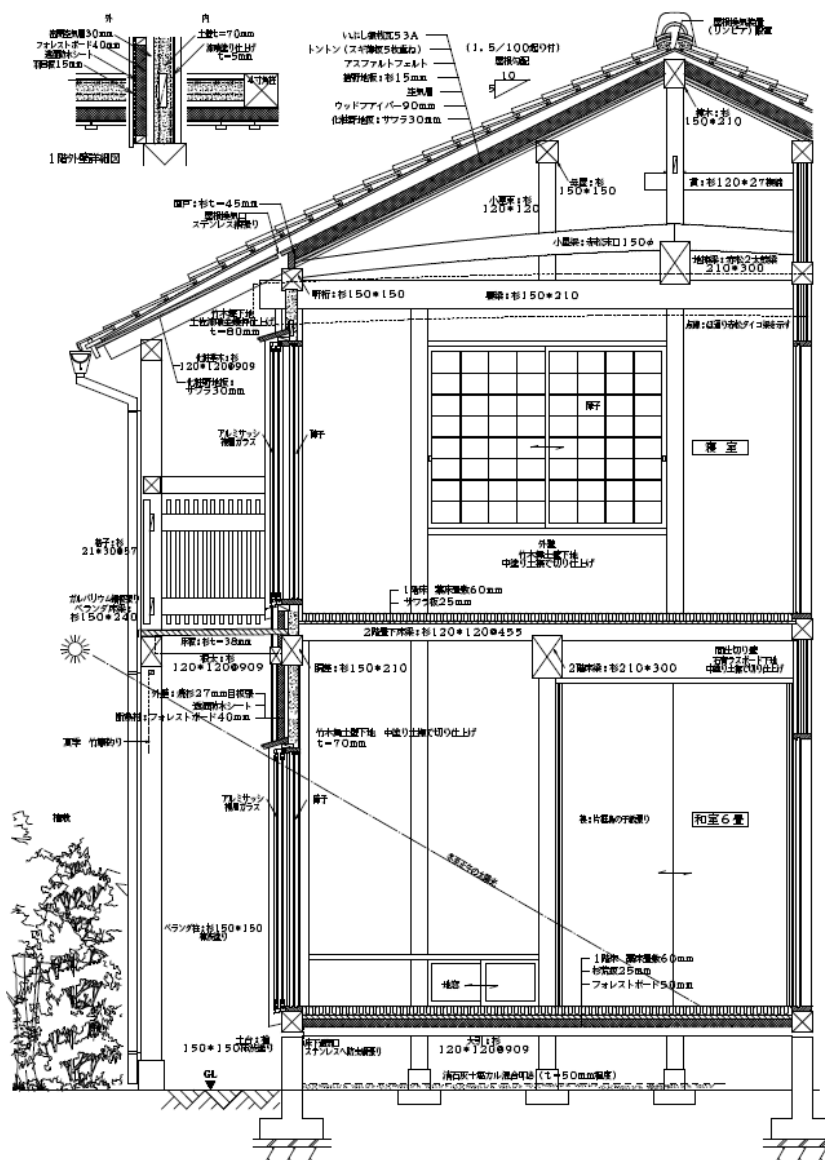
配置図



西側立面図



南側立面図



矩計図

■お施主様の声

築 40 年経った実家が、地元の山の木を使った家だったことから、家を建てるなら国産材の木で建てるのが目標でした。国産材を扱っている材木店を探している中で岡部材木店を知り、話を聞きにうかがったときにシティ環境建築設計さんを知りました。高橋さんの著書で家のデザインや直営方式に興味を持ち、依頼することに決めました。直営方式は、大工さんをはじめ職人さんたちと直接話ができ、家のことを詳しく知るだけではなく、将来的な関係を築くことができるので、この方式を選択して良かったと思います。

設計に当たっては、木の温もりが感じられる空間、様々な用途に対応できる畳部屋を要望しました。

温かみがあり冬の冷気を遮る障子、冷たさを感じない板張りの床、夏の日射遮蔽に効果的な深い庇、美しい土壁がとても気に入っています。

入居後は、家庭菜園で四季を感じたり、家のメンテナンスを極力自分で行うように心がけています。

■設計者の声

設計に当たっては、重要伝統的建造物群保存地区である蔵の街・川越らしさと、生垣や門かぶりの松などの植え込みを残す静かな屋敷町の景観と雰囲気、新築住宅において損なわないようにすること、県産材である西川材を柱・梁などに効果的に配置し、力強く美しい架構にまとめることに配慮しました。

また、気候風土適応型住宅の設計を続ける中で、家の環境性能を建築本体だけで完結しようとせず、周辺の緑化や小規模な農園など、建築を取り巻く場の力も借りて、全体的な環境負荷を考え、より良い環境に仕立てることが必要だという考え方に行き着きました。

今回の家づくりの波及効果として、世代交代による街並みの変化が続く川越市内にあって、現代的な住宅でも川越らしさを表現した家づくりが増えていくこと、若いお施主様が、量産型ではない家の価値を再認識してくれるきっかけとなっていくことに期待しています。